

2007 年 3 月 13 日

評価担当者：朝川哲司

最終評価項目
<p>1. 学習プログラムの目的（習得すべきスキル、能力等の達成目標など）が、人材育成に関する産業界のニーズに即したものであり、実社会で活かされる教育内容となっているかどうか。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 三鷹市立井口小学校において、キャリア教育事業の一環として実施されたクレイ・アニメーション制作の取り組みでは、同教育の学習プログラムの目的として、これからの情報化社会に生きる職業人に求められる「情報コミュニケーション能力の育成」を掲げており、昨年度の三鷹市立中原小学校での実践例と比較して、授業時間数的に短かったものの、同目的に沿う形でインストラクショナル・デザインが構成されていた。</li> <li>• 同校における学習プログラムは、参加児童全員に対してグループ単位でオリジナルの作品を作ることを求めるとともに、授業時間数的な制約を考慮して制作活動を中心としたが、同活動に伴う撮影の取り直しやシナリオの変更など良い意味での試行錯誤 (Try and Error) が繰り返され、その学習過程においてグループ内の児童間で活発なコミュニケーション（意見衝突とその和解も含めて）が行われていたことから判断して、三鷹市立井口小学校でのキャリア教育事業は、実社会で求められる「情報コミュニケーション能力の育成」につながる教育内容となっていた。</li> </ul>
<p>2. 学習プログラムの内容が、単なる職場体験、職場見学にとどまらず、事前学習や事後学習、体験学習などが取り入れられるなど、体系的かつ効果的な内容であるか。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 同校での学習プログラムの構成として、ポイントとなる段階において、民間コーディネーターによる講義や地域内にあるアニメーション制作会社から外部講師を招き、適宜、専門的な知見とアドバイスを提供する機会を設けていた。学習プログラムの初期段階では、クレイ・アニメーションに対する基礎知識を習得する機会を用意し、どの児童でも手軽にクレイ・アニメーション制作に参加できるという学習意識を高め、中期段階では、制作途中の作品に対して外部講師による批評を通じて、作品のさらなる改善を促し、最終段階では、再度、外部講師を招いて、出来上がった作品に対してプロフェッショナルな目にはどのように見えるのかなどの貴重な評価の機会を用意しており、それぞれの段階を踏むことで、参加児童の中で自己満足的な作品ではなく、他者の理解を得られる形での作品を作る意識（プロフェッショナルな感覚）が芽生えたことが観察されたことから、同学習プログラムの内容が、比較的に短い実施期間であったにも関わらず、体系的かつ効果的な内容であったことが評価される。</li> <li>• 一方で、作品の制作活動を中心としたことで、昨年度の三鷹市立中原小学校での実践例と比較すると、残念ながら十分な事前・事後学習の機会を時間的に用意するには至らな</li> </ul>

かったことが指摘される。そのため、実践活動を通じて気が付いた上記のような職業意識の変化などを、さらに深いレベルで内省的に振り返り、そして同校の参加児童全体で共有するところまでには至らなかったことが惜まれる。

3. 地域において、学校、PTA、教育委員会、産業界、行政機関など関係機関による協力体制が構築されるなど、事業の一体的かつ効果的な実施を図るための実施体制が確保されているか。

- ・ 三鷹市立井口小学校で実施されたキャリア教育事業では、同校としては初めてのアニメーション制作を通じたキャリア教育の実施であったため、当初、学校現場ではどのように実施体制を組めばよいのか多少の迷いが見られたが、民間コーディネーターによる積極的な介入もあり、回を重ねるごとに学校現場での実施体制も安定していく様子が観察された。
- ・ キャリア教育事業は、従来の公教育の中で実施されてきた教科ではないため、必然的に外部からの関与を必要とされるが、一方で同事業の実施主体が学校機関である限りは、学校現場での確固たる実施体制が整えられることが最も重要なはずである。そして、担当の教員からの求めに応じて外部の関係機関からの最大限の援助が行われることが期待される一方で、必要以上に学校現場に外部関係機関からの関与が直接顕になることは、教育上あまり望ましくないものと考えられる。
- ・ 上記の観点から鑑みて、今回の三鷹市立井口小学校におけるキャリア教育事業では、実施体制が同校内で確立されるまで、民間コーディネーターを中心とした積極的な外部からの関与が行われ、円滑に動き始めた段階で、徐々にその関与度を下げていく様子などが観察されたことから、事業の一体的かつ効果的な実施を図るための体制作りに関して、内外の関係者一同の中で相応の努力が行われたことは評価される。

4. 事業の実施主体である民間コーディネーターが、学校、PTA、教育委員会、産業界、行政機関など、関係機関を十分にコーディネートする能力を有しており、かつ、具体的な事業遂行能力を有しているか。

- ・ 今回の三鷹市立井口小学校におけるキャリア教育事業は、時間的に限られた条件の中で実施されたため、同校内での実施体制が整うまでの間、民間コーディネーター及び外部講師が積極的に関与する様子が観察された。特に、制作活動が始まった当初の学校現場での対応については、撮影及び編集作業用コンピュータの操作や撮影技術の伝授など同校の担当教員側では対応しきれない部分を、毎回、民間コーディネーターが同校を訪問して、随時丁寧なケアをしていたことが観察されたことから判断して、民間コーディネーターの現場対応能力及び事業遂行能力が十二分に発揮されていたことが評価される。
- ・ 唯一の課題としては、授業時間数的に限られた実施体制であったため、同校でのキャリア教育の開始当初は、民間コーディネーターによって引っ張った部分が大きく、その分だけ短期間に過度の時間的及び労力的な負担が、民間コーディネーターの肩にかかる状況が垣間見られたことが指摘される。

5. 本事業終了後において、学習プログラムの継続的な実施のための自立化の絵姿が明確になっているか。

- 学習プログラムの観点から判断して、今回の井口小学校にて実施されたアニメーション制作を通じたキャリア教育事業は、短い実施期間に応じた学習成果を残しており、継続に値するプログラムであると評価される。一方で、民間コーディネーター及びアニメーション制作会社からの外部講師による積極的な関与が、深くこの学習成果に寄与したことは間違いなく、同校での自立的な実施体制を築くだけの時間的な余裕があまり見られなかった点が懸念される。今後、同事業を継続していくのであれば、相応の自立的な体制が同校内で整えられることが求められるが、そのための検討の機会が、民間コーディネーターと同校の担当教員の間で、来年度の早い時期に設定されることが望まれる。
- 上記に関連して、三鷹市内での他のキャリア教育事業の参加校とも積極的に知見の共有を行っていくことで、井口小学校単独での自立化の努力を行うのではなく、地域全体で自立化の推進を推し進めていくことが提案される。(既に CCP 研究会を通じて、上記のような地域協力の動きが始まっていることを追記しておく。)